



梅雨も明け、連日30℃を越える日が続いています。日本列島は北海道を含めて猛暑が当たり前になってしまったようです。全国に目をやれば、九州、東北と例年にない短時間の降雨量が記録され、河川の氾濫、土砂崩れ等で大きな被害が出ています。被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに早い復旧を心から願っています。

さて、保育園では7月21日の2日間、恒例となっている年長児のお泊り保育がありました。初日の午前中に夕食の食材の買い物、午後から夕食の調理等を行い、会食、キャンプファイヤーを囲んでのゲーム、花火など、子どもたちの歌声や歓声が園庭に響きました。お泊り保育は、年長児のみの活動ですが、21日は年中児、年少児も年齢別クラスとして過ごしました。この体験が年長児一人ひとりの心を育て、たくましく成長することを願っています。また、お泊り保育をするに当たって、今年は夜間(21:00~23:00)の警備を保護者有志にお願いしましたところ快く引き受けてくださいました。お陰様で宿泊する職員は安心してお泊り保育の仕事に励むことができました。ありがとうございます。

翌日は9:00から保護者の皆さんにプール設置の奉仕作業していただきました。始まって間もなく防災無線から「熱中症警報」が流れてくるなど、厳しい暑さの中での作業となりましたが、25名の皆さんのご協力により作業開始から1時間くらいで全ての作業を終えることができました。参加して下さった保護者の皆さん、暑い中、本当にありがとうございました。24日から子どもたちはプール遊びを十分に楽しんでいます。プールから上がった子どもたちは、とてもすっきりした表情をしていて、これで猛暑の続く毎日を乗り切れそうです。

プール遊びが始まると、かき氷、流しそうめん(冷麦)、スイカ割りなど、子どもたちは水着を着たままでできる活動を楽しみます。どれも大好きで、とても良い表情が見られます。こうした活動が「楽しい」から、室内のごっこ遊び、おもちゃを使っての再現遊びにつながっていきます。こうした遊びを通して役割分担を決めたり、製作につながる活動では想像力を働かせ、物を作ったりする創造力へと発展していきます。子どもたちが「楽しい」と感じるのが遊びの原点です。周囲の大人は「楽しい」と感じることを強要することはできません。子ども自身が思うこと、主体として感じることです。周囲の大人は子どもが「楽しい」と感じられるような環境を整えることが重要な役割になります。今年のお祭り広場の縁日に「ビー玉をスロープに乗せると傾斜で転がり、止め具が外れ、ボールが転がりペットボトルに当たって回転するというものがありました。子ども心をくすぐり、年齢を問わず失敗せずに遊べる見事な仕掛けだと感心しました。これを考えた方は、子どもの喜び姿を思い浮かべながら傾斜の角度、カーブの度合など工夫して作られたのでしょう。作っている最中に遊ぶ子どもの姿を想像してほくそ笑んでいる姿も思い浮かびます。先月はお祭り広場、お泊り保育、プール遊びと、子どもたちが楽しみにしている活動がたくさんありました。これらの活動は私たち職員だけでなく、保護者の皆さんの協力なしでは実現できません。今後ともよろしく願います。(園長)



夜警をして下さったお父さんたちです